

答辞

寒くて厳しい冬の風も和らぎ、淡くて優しい花の色、シジュウカラのさえずり、太陽の匂い、そんな暖かい春の到来が感じられるようになりました。

本日は私達卒業生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、松永学長先生をはじめ、先生方、ならびにご来賓の皆様方にご臨席いただき卒業できること、卒業生一同を代表し、厚く御礼申し上げます。

4年前もこの会場で入学式をあげたことを鮮明に覚えています。このころは、自分の知っている世界が狭く、これから大学生になれば、どんなことでもできるという希望と可能性に満ちていました。でも現実には甘くはありませんでした。

私は世界の食料問題に貢献したいという気持ちで東京農工大学に進学しました。その社会に貢献したいという一心で、必死に学び、必死に考え、広く深く学問を修めてきました。しかし、自然科学や社会の仕組みを学べば学ぶほど、自分の目の前に広がる世界がとても複雑でとても広く、その広い世界の中では自分の積み重ねてきたものがちっぽけなものであったということを感じました。

また、学生生活は入学前に抱いていたような華やかなものではなく、楽しいことや嬉しいことより、つらいことや苦しいことに向き合う時間の方が正直長いと感じました。

でも、その度に励ましてくれる人がいました、こんな自分を支えてくれる人がいました。暖かい言葉で励まされたり、本気で応援してくれたり、そんな人たちに出会えて、人間として一回りもふた回りも成長できたこと、それが農工大で過ごせた掛け替えのない4年間だった、今そう思えます。だからこそ、深い学問の世界で学んできたことや、つらい現実に向き合ってきたことを肯定することができます。

この先の人生で、描いていた未来と、歩いていく道が違うかもしれません。それでも私たちは私たちが信じる道にそれぞれ進んでいきます。

最後になりますが、私たちを支えてくださった、先生方、大学職員の皆様、先輩、後輩、友人、そして家族に心より感謝を申し上げます。

この農工大で過ごした奇跡とも呼べる日々が、ただの思い出にならないよう、ずっと胸に抱いていきたいと思います。

平成 29 年 3 月 24 日

卒業生代表 生物生産学科 4 年 野村知宏